

11.

超音波工学フェロー  
認定審査委員会

# 超音波工学フェロー認定審査委員会

## 蜂屋 弘之

(東京工業大学理工学研究科)

### 超音波工学フェロー制度の概要

超音波工学フェロー制度は、1998年12月に発足した。本制度は、超音波あるいはそれに関連する基礎及び応用についての理工学の学識と経験が高度の専門レベルに達した理工学研究者を超音波工学フェローとして認定し、超音波並びに関連学問領域の進歩普及を図り、もって学術の発展に寄与することを目的としている。本学会の会員歴が8年以上継続している理工学関係正会員からの認定審査申請に基づき、超音波関係の業績等の審査が行われ、超音波医学の研究に大きく貢献し、その功績が顕著であると認められれば、超音波工学フェローとして認定される。超音波工学フェローとして認定された会員は、超音波工学フェロー(Engineering Fellow of the JSUM「EJSUM」)の称号を氏名の後に記載し、呼称する権利が与えられている。

### 超音波工学フェロー制度の歩み

1991年9月開催の日本超音波医学会理事会の席において松尾専門医制度委員長より、超音波医学会の理工学系会員に対して医学系会員に対する学会認定指導医に対応する認定制度制定の提案がなされた。この件の一層の検討に関し竹原会長より企画委員会に諮問されたのを受け、1992年1月開催の理事会において、学会認定指導医と同様の工学系に対する称号の制定は望ましいとの答申があった。その後、継続して工学系指導者の制定

と名称、本件の実施方法等についての審議が続けられ、1997年10月の企画委員会答申、1997年11月の工学系専門医・検査士制度委員へのアンケートなどを経て、1998年7月の理事会において、千田理事を中心として審査基準を策定する作業を開始することが報告された。この後、精力的な作業の結果、1998年12月の理事会において、超音波工学フェロー認定制度が新設されることが認められた。超音波工学フェローの認定には、会員歴8年以上の理工学関係正会員で、内規に定められた業績を有する事が必要であるとされた。1999年4月の理事会で第1回の超音波工学フェローとして80名が認定された。公募にあたっては、会員歴8年以上の理工系正会員で、超音波工学フェローの対象者となり得る者については、超音波工学フェローについての案内を送付し、周知を図っている。超音波工学フェローは超音波専門医と同様に5年経過後に資格更新の審査を受ける必要があるため、2004年には第1回の超音波工学フェローの資格更新審査が行われた。また、2002年には、主に超音波機器メーカー所属会員の業績評価が適正となるように、業績の一部に特許を含ませることができるよう審査内規を改正している。2012年度の超音波工学フェローの公募は14回目、資格更新は9回目となる。これまでの、超音波工学フェローの認定者数を表1に示す。第1回を除けば、毎回の認定者数は数名である。これまでの認定者数総数は100名を超えるが、5年ごとの更新時に、未更新者などが生じているので、2012年9月現在、超音波工学フェローの人数は91名である。

表1 超音波工学フェロー認定者数

認定回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年 度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
認定者数	80	1	5	3	0	3	1	2	2	2	9	4	6

## これからの超音波工学フェロー制度

現在の超音波工学フェローの地域別の分布は下表のようになっている。

この表より、超音波工学フェローは80%が、関東・甲信越地区に集中していることがわかる。91名のうち、大学・研究機関等関係者が44名、超音波関係機器メーカー等関係者が47名であり、このメーカー関係者の95%が関東甲信越地域に所属している。会員歴8年以上の理工系正会員の動向から考えて、超音波工学フェローの人数は今後大きく増加することはないと思われ、また、地域的な分布の傾向も維持されると推察される、この点を考慮した制度の運用が必要である。

超音波工学フェロー制度は13年が経過し、徐々に認知度は上がっているとはいえ、工学フェローの存在は十分に周知されているとはいえない。学会の学術集会講演抄録集や学会誌論文には超音波工学フェローの称号の記載が行われてはいるが、学会の中でも認知度は十分とはいえず、工学フェロー資格の認定応募、更新について積極的な動機付けに乏しいのが現実である。超音波医学会は、医学と工学が密接に関連し発展してきた学会であるので、超音波工学フェローがその専門性を十分に認知され、かつ、学会および社会において、超音波医学の発展に対して責任を果たせるような超音波工学フェロー制度の活性化について継続的な議論を行うことが必要である。

表2 地域別超音波工学フェロー人数（計91名）

地 域	北海道	東北	関東・甲信越	中部	関西	中国	四国	九州
認定者数	1	5	74	3	4	1	1	2